



進化を続けるがん治療法

2人に1人は癌になる現代。

昔は「**不治の病**」と言われていた癌ですが

治療の進歩や新たな治療法の登場により

「**治る病**」へと変化しています。 **放射線治療**

「**手術**」「**放射線治療**」「**薬物療法**」

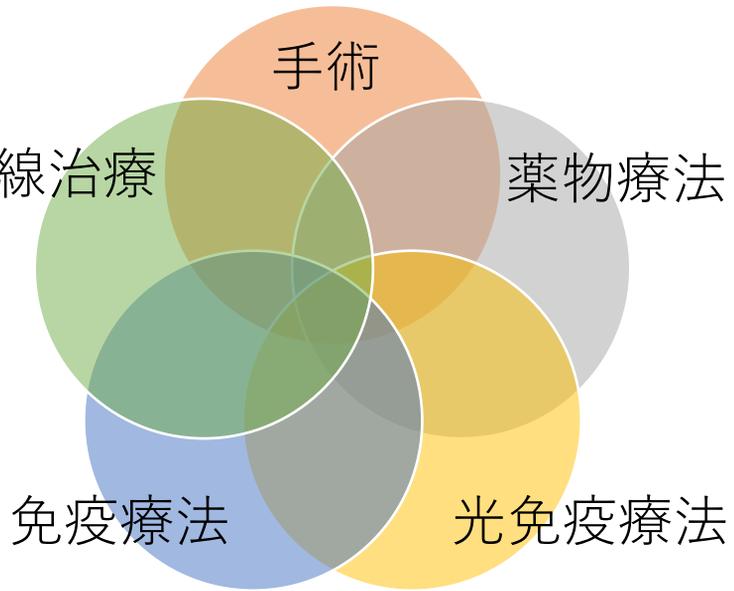
の3つで、がんの **3大治療法**と呼ばれて

いましたが、最近ではそれらに加えて

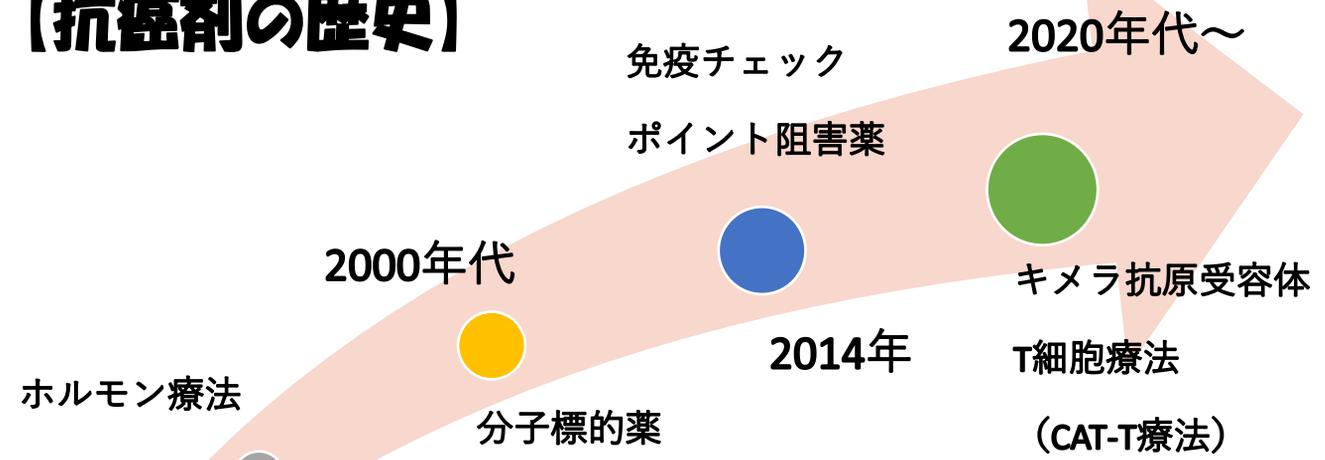
「**免疫療法**」「**光免疫療法**」

という第4、5の治療選択肢ができ

5大治療法となりました。



【抗癌剤の歴史】



従来の抗がん剤（**殺細胞性抗癌剤**）は良い細胞も悪い細胞も、焼き尽くすような治療であり、「**抗がん剤＝副作用が強い、寿命が縮む**」ような印象があったかもしれませんが、2000年代に登場した**分子標的薬**はがん細胞だけをピンポイントで狙い撃ちする治療薬なので「**副作用が少なく、正常な細胞への影響を小さくする**」ことが可能になりました。そしてここ10年前後で**免疫療法**が急速に進化を遂げてきています。**免疫療法**は、免疫の力を利用してがんを攻撃する治療法です。昔から免疫療法という言葉自体はありましたが、有効性などのエビデンスも乏しく、民間療法などの域で自由診療で行われることが多かった背景もありましたが、2014年に日本初の免疫チェックポイント阻害薬として**ニボルマブ**が登場されて以降、非常に多くのエビデンスが集積され、現在ではがん治療の中心として台頭してきました。免疫チェックポイント阻害薬やCAR-T細胞療法など、**免疫療法の進化**は、今後がん治療の新たな展望を開いていくと思われます。

現在使用されている免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) 一覧と免疫関連有害事象 (irAE) について

【免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) 一覧】

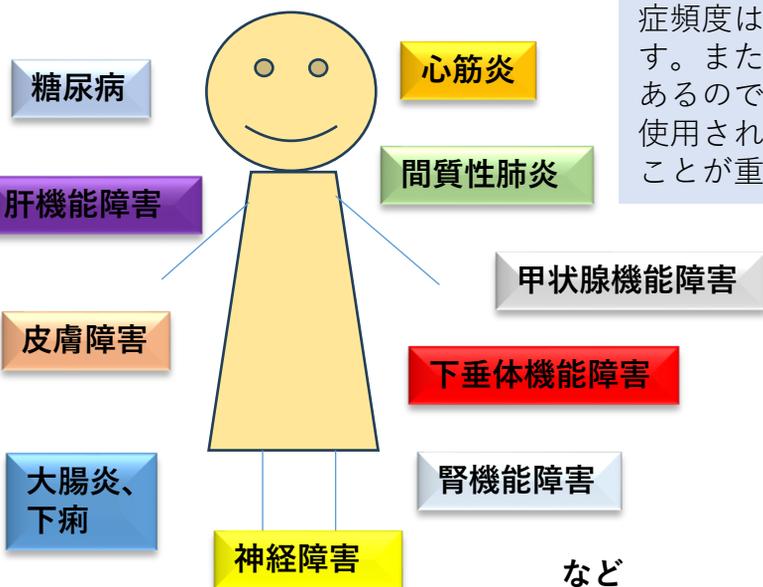
ターゲット	製品名	一般名	製造販売元
PD-1	オプジーボ	ニボルマブ	小野薬品工業
	キイトルーダ	ペムブロリズマブ	MSD
	リブタヨ	セミプリマブ	サノフィ
PD-L1	テセントリク	アテゾリズマブ	中外製薬
	イミフィンジ	デュルバルマブ	アストラゼネカ
	バベンチオ	アベルマブ	メルクバイオファーマ
CTLA-4	ヤーボイ	イピリムマブ	ブリistol・マイヤーズスクイブ
	イジユド	トレメリムマブ	アストラゼネカ

【免疫関連有害事象 (irAE) について】

2024.12 時点

免疫チェックポイント阻害薬 (ICI : immune checkpoint inhibitor) は、免疫細胞を活性化することにより抗腫瘍効果を発揮すると考えられますが、その**免疫反応が過剰になった場合に免疫関連有害事象 (irAE : immune-related Adverse Events)** が発現するといわれています。

一般に、従来の抗がん剤に比べ重篤な有害事象の発症頻度は低いが、**ときに致命的になる**ことがあります。また、**全身**の様々なところに発現する可能性があるため、免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) を使用されている方は**些細なことの変化にも着目**することが重要です。



当院の外来化学療法室

当院でも外来化学療法室・入院病棟で免疫チェックポイント阻害薬 (ICI) を用いた治療を行っております。薬でご不明な点がございましたら、気軽に医師、薬剤師にご相談ください。

【地域の皆様へ】

当院は地域と連携し救急患者を夜間、休日または深夜を含む24時間診療することのできる体制を整えております。担当医師は正面玄関掲示にてご確認下さい。